

# 高同窓会報

松江高等学校  
松江北高等学校同窓会  
事務局  
松江西川津町3618  
島根県立  
松江北高等学校内  
4888  
0655  
0741  
0852

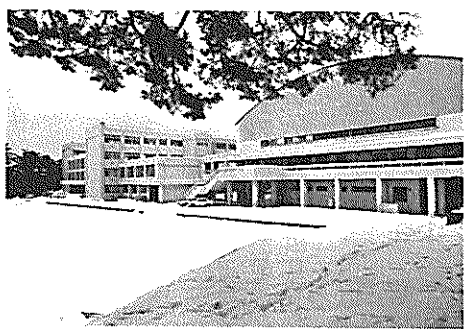
第8号

## 校舎竣工に寄せて

松江高校同窓会長 森本 暉

また新しい年が巡ってきました。昭和五十三年、それは私たち同窓会にとっては、終生記念すべき年になるかと思ひます。それは一つには、長年の念願であったわが学舎、松江北高校校舎が、かの赤山台の上に移転改築され、この四月からいよいよ開校となること、そしてもう一つは、明治九年松江北高の前身である県立教員伝習校松原中学校が創立されて以来、実に一〇〇年の歴史を数え、今年の五月、多くの先輩後輩が相集い、盛大な記念行事が執り行われることでもあります。

母校移転の議が持ち上りましたのは、もう十年以上も前のことでした。現校地が松江市の都市計画道路にかかると、その移転先をめぐってかなり論議が交され、適地調査等も行われましたが、結局、旧制松江中学校ゆかりの地、二本松のそびえる赤山と決定いたしました。今この台上には、鉄筋四階建の白亜の殿堂が、日一日とその英姿を見せ始めております。わが国教育史の中でも有数の歴史と伝統を誇る学舎が、再びよみがえろうとしております。そして、この校舎新築と併せ、私たち卒業生が一丸となって取り組んでまいりました記念館も、昨年七月起工式を挙げて以来着々と工事が進み、学校当局やPTA等のご協力により、当初計画を遙かに上回る規模のものが出来上りつつあります。この間の同窓生諸氏の絶大なご尽力ご協力に対し深甚の謝意を表しますとともに、この立派な学舎から、松江北高等学校の新しい歴史が生まれ、やがて二十一世紀をになう



双松より見た 管理棟 教室棟 体育館 (昭和53年2月3日撮影)

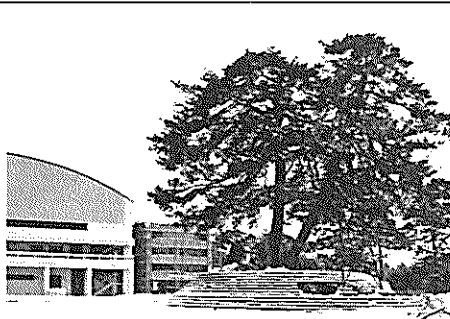
豊かな俊英が数多く輩出されることを心から念願するものであります。また一〇〇周年は本来ならば昭和五十一年に当りましたが、校舎が建設途上にあったため、祝賀行事は校舎の竣工に併せ今年の五月二十一日、二日の二

日間、赤山の新校舎で盛大かつ厳肅に行われることになっております。記念式典を始め同窓会総会及び祝賀会等多彩な行事が計画されております。一〇〇年の歴史はまた明治以後の近代史そのものであり、「質実剛健」の気風は今も脈々と受け継がれております。全国各地でご活躍の卒業生の皆様もこの日は是非帰省され、懐しい同窓たちと一緒にこの記念すべき日を共に語り共に祝い、わが松江高校、松江北高校の気概を県下にとどろかせていただきたいと思ひます。

いよいよ移転の年を迎えました。経済状況はなかなかきびしい昨今ではあります。卒業生の皆様には益々御健勝で御活躍のことと存じ上げます。「こうして四年後、再び北高に御縁がある」とは、校舎を取り囲む樹々も一段と大きくなり、枝も広がってきた。しかし建物は一層の老いを、疲れを感じさせる。生徒達はどうか変わって来ようか。これが昨年四月皆様の母校に着任して校舎に一步足を踏み入れたときの感想でありました。

以来、不敏非才の身ではあります。一意専心北高発展のため、生徒たちの幸せのために尽したいと努力しております。何とぞ皆様の御支援をよろしく御願ひ申し上げます。

たえた意義深いものにしてしようという気運があります。もとより私どもも望むところであり、良き先輩諸兄姉とともに、わが同窓会の飛躍的な発展を期してやまないものであります。



体育館の右側が記念館 (昭和53年2月3日撮影)

## 創立百周年 記念行事大綱決まる

### 校舎竣工

記念行事の日程と内容については、学校当局・PTA・期成同盟会・双松会・松操会・市立高等学校同窓会・松風会・松江北高同窓会からなる記念委員会によって検討され、期日は昭和五十三年五月二十一日(日)二十三日(月)の二日間と決定されました。内容については、大体次の通りですが、現在最終的な詰めに入っております。

記念講演 一〇、〇〇〇〜一、三〇〇  
記念音楽会 (県民会館大ホール) 一、三〇〇〜三、三〇〇

第一日(五月二十一日)  
記念除幕式 九、〇〇〇〜九、二〇〇  
記念式典 一〇、〇〇〇〜一、三〇〇  
記念祝賀会 一、五〇〇〜二、二〇〇  
同窓会合同総会 二、一五〇〜二、一五〇  
同窓会祝賀会 四、三〇〇〜六、〇〇〇  
提燈行列 六、三〇〇〜九、三〇〇  
コース 北高(赤山)↓殿町↓大橋↓朝日町十字路↓新大橋↓西川津校舎↓大輪町↓北堀町↓北高

なお、期間中は校舎を一般に公開し、記念館では松江北高百年史展が開催されます。同窓生の皆様にはまたとない機会であらうと思ひます。終了後はその一部を記念館の資料室に常時展示されることになっております。

第二日(五月二十二日)  
講演 「本校の沿革」 九、〇〇〇〜九、五〇〇

記念事業としては、記念館の建設はもとよりですが、創立百周年・校舎竣工の記念碑を赤山に、そして西川津校舎の跡地にも記念碑を建てることになつていまして、それぞれに意義深い碑となることとしよう。その他に「写真で見る百年史」(約三〇ページの発行など盛り沢山の内容が計画されていまして、各同窓会の合同による記念祝賀会は「ホテル一畑」を会場にして盛大に行なうことになっております。この機会に各期の同窓会を計画されるのもよいかと思ひます。赤山での総会及び祝賀会に多数の会員各位の参加を願つてご案内申し上げます。

移転は三月を予定して計画をすすめております。亭々としてそびえる双松のもとで学ぶ日も間近になりました。新校舎の屋上からの眺めは、周囲をとく、美しい眺めを展覧し、多感な高校生をの魂をゆり動かすことと思ひます。

今春五月二十一日、二十二日に、創立百周年ならびに校舎竣工記念の行事を行いたいと思ひます。何とぞ御来校参列の程を御願ひ申し上げます。今までの御支援に心から感謝申し上げます。今までも、今後ともよろしく御願ひ申し上げます。

「松江北高等学校百年史」は昨年三月、五年の歳月を経てようやく刊行されました。幸い、多数の予約をいただいた。生徒諸君の希望も多く、これまでに大部分の頒布を終りましたが、なお余分があります。まだご購入いただいたくない各位にぜひお求めいただきたい。ご案内をお願いいたします。

明治九年の松江中学の草創から松江高女、松江市女、松操高女が順次成立し、戦後一高、二高、市高を経て松江高校が成立、中途松江南校を分離させて今日にいたる学園の長い歴史が多くの資料、珍らしい写真を織り込んで詳しく語られており、すでに手中にされた方々からは好評をいただいております。

この春学校は西川津の地から奥谷赤山の地に移ることになりました。西川津の校舎で学ばれた各位には、この校史がとくに思い出の貴重なよすがとなると思ひます。どうかこの機会に購読をお申し込み下さい。お申し込みはハガキ(郵便番号、住所は明記下さい)でけっこうです。

「松江北高百年史」  
頒 頁 体 裁  
価 数 一七八〇頁  
五〇〇〇円

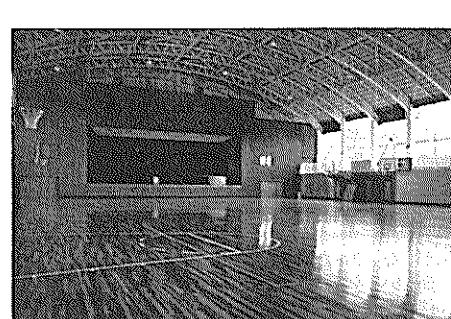
申込先  
三月十九日までは  
600 松江西川津町三六一八の一  
県立松江北高校 図書館  
三月二十日からは  
600 松江市奥谷町三八九の二  
県立松江北高校 図書館

郵送料は学校負担、代金は現品到着ののちお支払いいただきます。

松江北高校川津校舎  
離別式

主催 松高・北高同窓会  
とき 53年3月5日(日)2時より  
ところ 松江北高校(西川津町)  
松江市総合体育館(研修室)

会費 1,000円  
懐かしい校舎を見学し、体育館で離別式を挙げる。その後、市の総合体育館に会場を移し、恩師をお迎えして惜別の会を持つことになっております。どうかお誘い合わせの上ご出席下さいませようご案内申し上げます。



新体育館

# 茅舎の二十年

兼折 博

この冬が明けると、北高もいよいよ西川津校舎とは別れである。私にとっても、この校舎は、教師としての半生をそこに埋めた場所である。ここには、あの人の人、記憶の中にある生徒が無数に在りし、いろんな出来事も行事も、限りなく私の思い出の中にある。そして個人の生涯も、この校舎と共に流れていったようなものである。北高がこの地を去ることについては、格別の思いのあるのも、また自然なことであろう。

こんな季節には鴨がよく南京黄植や梅檀の実をつつきに来た。荒涼としていたが、冬枯れも悪くはなかった。燃えぬだるまストーブに苦しめられ、西風が吹くガラス窓に、いらいらさせられる日も多かった。この校舎を茅舎と呼ぶのも多かたが、何やらこの二十年、ガタガタの老朽校舎に苦しめられた記憶ばかりが強い。南北校舎合併の時、校舎の三分の二は増築されたもので、新装の図書室などが、ひどく嬉しかった記憶はあるが、それは古くこと。この近年、台風だ、大雪だと絶えず損壊におびやかされ、家ダニ騒ぎまでした校舎だったから、よけいそんな印象ばかり強いのも無理ない。そんな中で、年と共に緑の深くなっていくのが、私には救いだ。

こんな校舎がしかし、あまり苦にならなかったのは、それは生徒のせいだったろう。教室や部活動での十余年、ガッシと四つに組んで手ごたえ十分だったし、後生おそれしと思ひ知らされたことも多かった。最後の六年余も、打てばひびくものを、常に肌感じて来た。くすんだ校舎とは逆に、生徒は輝いていたのである。川津校舎の二十年とは、こんな生徒との二十年だった。教師冥利というさへ惜越か、と思つてもみる。

赤山から降りた時、三年生だった二期生が憤懣やるかたなく、田町学校などと戯れ呼んだこの校舎だが、三十年の星霜を閲し、歴史の重みは、いままじしりとここに積っている。新校舎落成の喜びもさることながら、旧校舎に身を置いたものの愛惜は、また格別のものがある。いまそれをかみしめることである。(元校長)

## 川津校舎の思い出

森 淳

「清く、明るく、直く、強く、豊かに」の旧県立松江高等学校の校訓が掲げられていた。ホームルームの教室へ初めて入ったのは、もはや記憶が定かではないが昭和二十四年の四月であったと思う。

旧制県立松江中学校の生徒として敗戦のあの暗く寒い冬の後、桜花咲き誇る春四月校門をくぐったが、最後の松江中学校の一年生になろうとは神ならぬ身の知るよしもなかった。野球と生徒大会、二度の校舎の火災、旧制松江高等学校校舎での朝六時半頃、夕方四時頃からの授業とまさにわれわれ旧制中の生徒の青春はシトルム・ウン！ドラングの時代と共にあった。昭和二十四年の二月頃のクラス会での男女共学についての討論会、反対が多数であったが、まだガキの我々はどうするすべもなく、新発足した松江高等学校の一年生として、橋北の生徒は赤山へ、橋南の生徒は川津へと別れていった。

ホームルームは四十五人位のうち、一年生だけが完全共学で男生徒が五人位であり女生徒は一、二、三年が一緒であった。完全モザイク制度による授業時間ごとの教室移動、座席も自由ということで、ほのかに恋心を抱く人の隣りに席をとったり、また体育の時間にはスクエアダンスがあり女の子と手を握ってダンスなどができるとか、男生徒が全員サボったりしたものであった。私自身のことでは恐縮であるが、全校執行委員、新聞部、演劇部、軟式庭球部、軟式野球部、女子ソフトボール部監督、化学分析班と学校へ遊びにいっているのか勉強にいっているのかわからない状態であった。いへん楽しい三年間を過ごさせてもらった。



松江北高校西川津校舎 正門

松高へ入学してからやがて三十年になる。月日の経過するの早いもので、同期の仲間の子供達が当時のわれわれの年頃あるいはもっと年長になる。子供の大学進学の話などがさかんに話される頃である。

赤山校舎より川津校舎へ移ってきた我々、その子供達が今春三月川津校舎から赤山校舎へ帰って行く。ここに世の移りかわりを見るが、又、一方、今はなほ旧制県立松江中学校、県立松江高等学校、松江立高等学校、松江南高等学校、松江女子高等学校、松江南高等学校は分離し、市立女子高等学校は新たに発足し、松江家政高校は発展している。やはり、それぞれのニーズがあつて存在していた学校を一つに統合することに無理があつたのではないかと考える。我々旧制中の生徒はさておいて、旧各高等学校卒業生あるいは在学中であつた彼女達の心境を察すれば、新校友会館の募金にあたり「実家がなくなるのに何の募金ごとですか」との声があつたのももつともであると思う。せめて旧各学校の校地の跡に「旧制〇〇高等学校校ここにありき」との記念碑を建て、もつて彼女等の青春の墓標としてあげたいものである。(第三期卒業)

## あの頃の学校生活

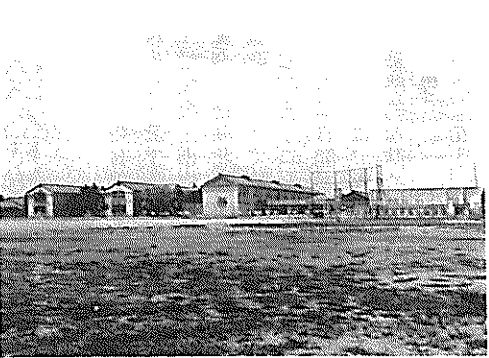
狩野 恒枝 (旧姓 増田)

久方ぶりに縁あって母校に足を運ぶようになり、それも間もなく石碑を残して消えてしまふ校舎を目のあたりにして、折角こんなに学園らしくなったのに、と惜別の感一入です。

国民学校(小学校のことです)の五年生の頃米子の県立高女の女学生姿にあこがれ早くあんな風に、と夢みていました。にもかかわらず私が松江高女に入学した現実はまだここにきびしく、あこがれの長いひだスカートはモンペ姿、校庭は一面畑でした。

時期、時期で畑の主はかわり、ある時はトマト、ある頃はサツマイモ、又ある時は麦と様々で、戸外で暮らすことが多く、日中は現在の柔剣道場で頭を並べてお昼寝、晴耕雨読(あまり雨が降らなかつたみたい)でした。現在の第一棟あたりは家畜舎で、牛、豚、メンヨーが住んでいて、人間様は食糧難でしたが、せつせと飼育に励み、今から思うと全く健康そのものでした。

間もなく迎えた終戦で次第にこの状態は消滅して、二学期からは少しずつ校内の生活時間がふえはじめ、新聞紙を折りたたんだ教科書で勉強が始まり、英語の授業も登場してきました。



校庭から見た西川津校舎

校舎の外観は、周囲が周囲です。無味乾燥というか、たえず真夏の午後のような殺風景さでしたが、内部はさ

すが女学校、隅々まで掃除がゆきとどき輝くばかりで、昇降口の正面は全面鏡、それもくまなく磨かれていました。この状態は学制改革と共に徐々にくずれて現在に至つたようです。

当時は講堂がなく校庭も畑、したがって全校生の集会は隣地の市営グラウンドで、対面式、新・退任式はもとより、校歌の練習も風が声をさらってしまふ大空のもとで、聞こえたり聞こえなかつたり……。たまたま着任が雨天だと新任の先生はマイクを通してご挨拶があり、後日見なれない先生に出会うと、「ああ、この方が新任の先生か」と納得したものです。

校舎も次々と増築され、授業間の名物、教室移動も行動範囲が広がり、大きな荷物がかかえて大変でした。

卒業を控えた年の十一月、赤山の北校舎からも全員下山、名実ともにマンモス校になりました。体育館は卒業間近になってやっと出来上がり、卒業式と、前日の練習の時にキョロキョロとあたりを見まわしながら入っただけでした。体育館はなくとも優秀な運動選手は県代表として団体等で活躍されていたのですから、今もって運動が不得手なのは個人の責任なのでしょう。

このような学校生活でしたが、そこで過ごした六星霜は実に優雅(?)で情緒がありました。

花の四月ともなれば花吹雪の下で昼食、雪が積もれば雪合戦にと楽山公園にもしばしば足を運んで風流を楽しみ、植物の勉強もしました。

一学期に一回は名映画の鑑賞会もあり全校で出かけました。「石の花」というカラー映画をはじめた時、その色の美しさに感動したり、時にはセリフに感動もしました。その一つに「赤い靴」を鑑賞した日の午後、英語の時間に「伯父さん」というべきところを映画のセリフによいしれた余韻で、勝手に「いとしい人」にかえて暗誦した愛すべき友もいて話題をよんだものです。

ピョンと一とびすれば野球場という地の利もあって、対米子東高戦ともなれば応援に出かけたことも一度ならず……。このようにして幅広い人間形成

## 昭和51年度会計決算書

I 収入の部		記念品費	389,050円 (卒業記念品・証書入れ)
入会金	1,726,100円 (全日制通信制)	通信費	610,726円 (会報発送等)
前年度繰越金	883,252円	幹事会費	128,170円
利息	15,579円	人件費	82,306円
合計	2,624,931円	雑費	40,024円
II 支出の部			1,567,426円
会議費	153,650円 (期別会、東京・近畿総会等)	III 次年度繰越金	1,057,505円
印刷費	163,500円 (会報・案内状等)		

に励んだ思い出は懐かし、青春の証として生きつづけています。

今頃時たま歩廊下は、当時より増した私の体重もさることながらいやに振動したり、しなったりするよう、青春の真つただ中の若いエネルギーは負担でかわいそう。あまり老いをさらしすぎないうちに時代の要請にしたがつて生まれかわるのも又うべなるかなと思える心境にもなります。

建物はなくとも、多感な若い日々を過ごした思い出は各自の脳裡にや張り淋しいですね。(第二期卒業)

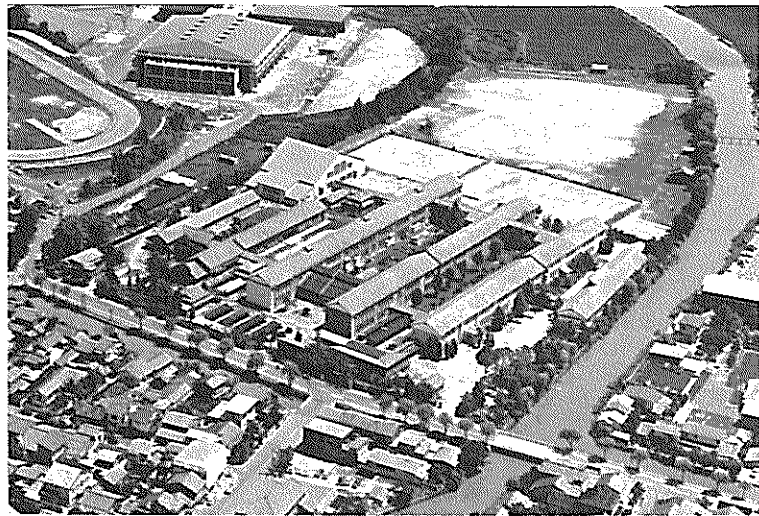
# 懐かしの西川津校舎と新校舎

赤山新校舎全景



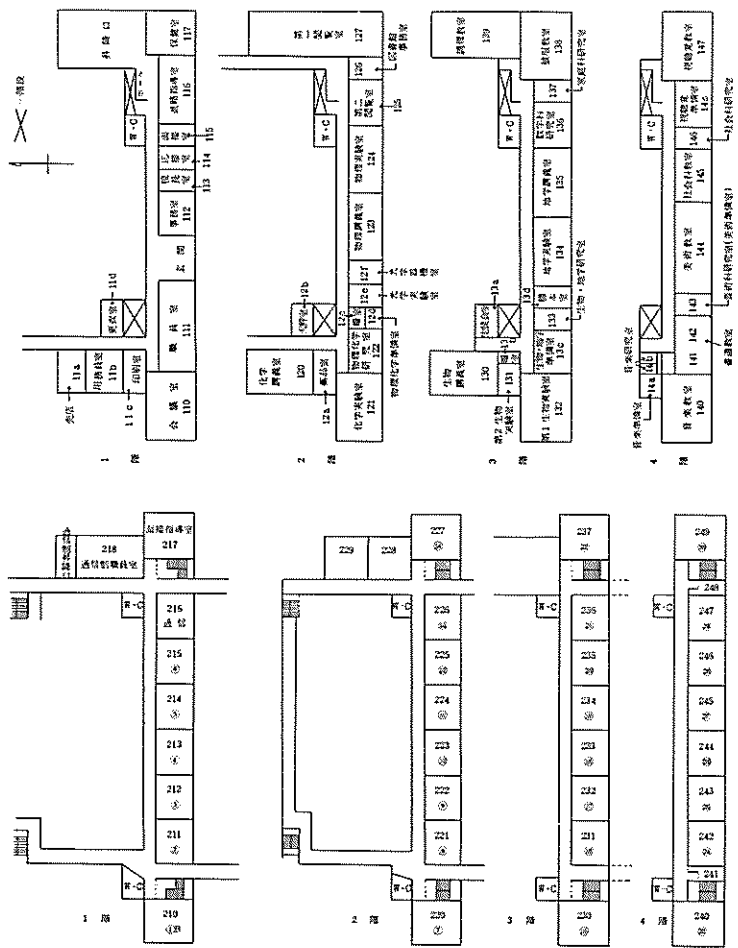
左後方が第二グラウンド (昭和52年8月撮影)

西川津校舎全景

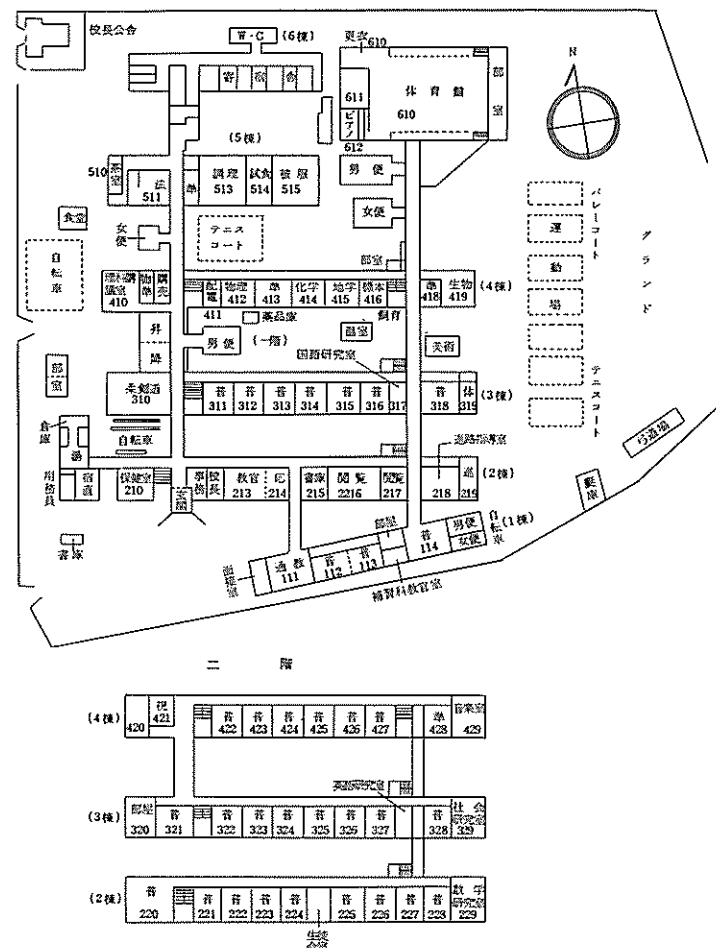


左後方は野球場跡にできた松江市総合体育館

松江北高校 新校舎配置図



西川津校舎配置図(昭和52年度)



## 本校の沿革

昭和十七年(一九四二)  
 (松中)一月、岡鹿次郎校長逝去。一月、第三代藤田裕校長就任。  
 (県女)一月、西川津校舎へ新築移転なる。  
 昭和二十年(一九四五)  
 (松中)(県女)(市女)(松女)七月、学徒隊結成。八月、敗戦により  
 動員解除。  
 (県女)一月、第二代尾崎武雄校長就任。  
 昭和二十一年(一九四六)  
 (松中)八月、野球部、全国中等学校野球大会で準々決勝に進出。  
 (県女)一月三日、創立五〇周年記念式を挙行。  
 (市女)四月、第九代田中重雄校長就任。  
 昭和二十三年(一九四八)  
 (一高)(二高)(市高)  
 四月一日、島根県立松江第一高等学校、松江第二高等学校および松江市立  
 高等学校併合。四月、松江高女閉校式挙行。五月五日、松江第一高等学  
 校火災(全校舎焼失)。一月十五日、松江第一高等学校再度火災(五教  
 室焼失)。  
 昭和二十四年(一九四九)  
 四月一日、島根県立松江高等学校発足、初代吉田正男校長就任。  
 昭和二十五年(一九五〇)  
 一月、北校舎、赤山に離別、実質統合なる。  
 昭和二十六年(一九五一)  
 二月、体育館竣工。九月、「高文連」結成。  
 昭和二十七年(一九五二)  
 九月、修学旅行実施(北九州)。  
 昭和二十八年(一九五三)  
 四月、第二代会長就任。一月、校歌の制定。  
 昭和二十九年(一九五四)  
 四月、モザイク制からコース制に移行。  
 昭和三十年(一九五五)  
 五月、第一回宗道湖一周マラソン実施。一月、松江高校創立一〇周年記  
 念式挙行。  
 昭和三十一年(一九五六)  
 四月、第四代木嶋徳太郎校長就任。一月、松江南校舎なる。  
 昭和三十三年(一九五八)  
 三月、被服課程を廃止する。四月、松江北高等学校と改称。宍道分校は松  
 江南高等学校に移管。第五代藤原治校長就任。  
 昭和三十七年(一九六二)  
 四月、第六代松浦俊明校長就任。  
 昭和三十八年(一九六三)  
 六月、第一回県高校総合体育大会に総合優勝する。一月、第一回能研テ  
 ニス大会実施。  
 昭和四十年(一九六五)  
 四月、第七代岡崎吉校長就任。補習科設置。男子寮設置。五月、旧松江中  
 学創立九〇周年記念式挙行。  
 昭和四十二年(一九六七)  
 第五回、県高校総合体育大会に総合優勝する。  
 昭和四十四年(一九六九)  
 四月、理数科設置。大井、大海崎往復徒歩大会始まる。校舎移転改築期成  
 同盟会結成。一月、第八代兼折博校長就任。  
 昭和四十四年(一九六九)  
 一月、学園紛争起る。  
 昭和四十五年(一九七〇)  
 六月、第八回県高校総合体育大会に総合優勝する。  
 昭和四十七年(一九七二)  
 三月、県教委、松江北高校の赤山移転改築を決定。  
 昭和四十八年(一九七三)  
 六月、第一回県高校総合体育大会に総合優勝する。  
 昭和四十九年(一九七四)  
 六月、第二回県高校総合体育大会に総合優勝する。  
 昭和五〇年(一九七五)  
 三月、赤山新校舎地鎮祭を挙行。四月、第九代森脇長逸校長就任。  
 昭和五一年(一九七六)  
 三月、松江中学創設以来一〇〇年が経過する。四月、新校舎体育館竣工。  
 十二月、新校舎普通教室棟竣工。  
 (松江北高百年史より抜粋)



# 待望の記念館

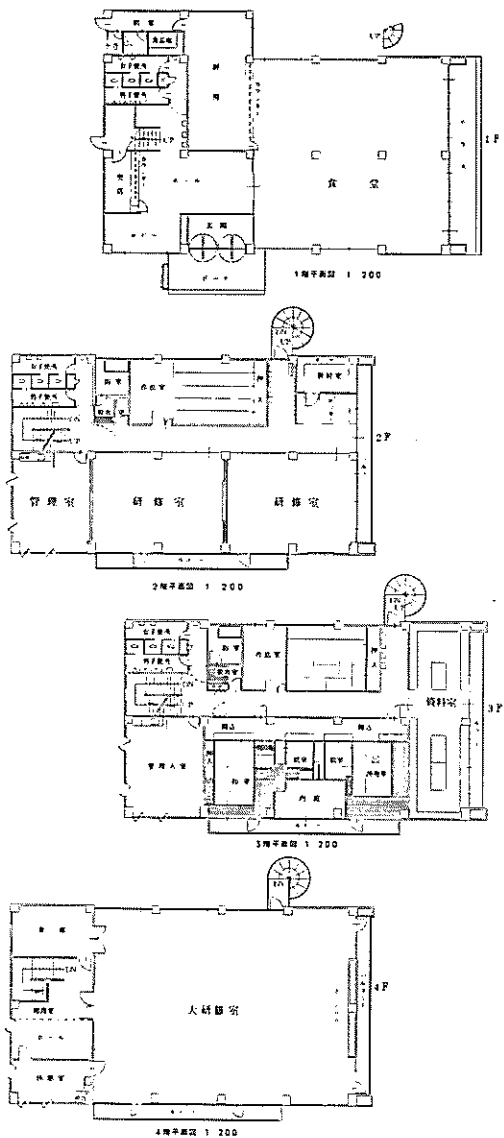
長い間の懸案であった赤山の新校舎につきましては、体育館、教育棟、管理特別教室棟が完工し、一月十七日に引き渡しが行なわれ、いよいよ三月中旬には移転ということになりました。外部施設、通路整備、また付帯工事としての柔剣道場、部室などは本年三月末までには完成することになっております。長期にわたって募金をお願いし、校舎完成とともに完工に努力して参りました記念館(同窓会館)も昨年の八月より着工し、関係各位の御協力によって、本年二月中には完工のはこびとなりました。

記念館については幾分詳細に申しますと、  
一階三七〇㎡(一一二坪)  
食堂としての機能が最優先してあります。食事は一回に二七〇人が出来ますし、これに厨房、売店があります。  
二階三五〇㎡(一〇六坪)  
研修室、管理室、和室、この階は生徒の研修、会議、合宿のためのものです。  
三階三五〇㎡(一〇六坪)  
同窓会に關係する資料保管のための資料室  
現在北高にある沖舟亭、南田庵と規模が同じ、茶室、それに内庭を配し、その他に和室(合宿用)管理室があります。  
四階三五〇㎡(一〇六坪)  
集会、講演に使用できるように大研修室があります。放送設備を独立にもち、約二百六十人は取用出来るように椅子も用意してあります。

各階共、バルコニーを有し眺望のことは充分に考へてあります。また外庭は日本庭園にしようとの設計になっております。  
以上が概要です。  
学校全体としては周囲に緑をもち、閑静で勉学の場としては最適と存じます。

次には運動場のことに触れますが、丘の上のこととして運動場は狭いのですが、赤山の下の西側に第二運動場用地があり、これの整備には地元同窓の必要とし、そのために整備が遅れていますが昭和五十三年度になって直ちにというわけには参りませんが、ある時期からは、一部、または全面使用出来るように希望が持てるようになり、四階からは松江市街、宍道湖が見え、他にはない教育環境は生徒に必ずよい印象を与えることと思っております。  
(北高内建設部 佐伯)

## 記念館配置図



## 募金状況

記念館(同窓会館)建設基金募金状況

(S 53.1.31 現在)			
期	目標額 万円	募出額 万円	募出者数 (卒業生数)
1	150	156.1	112 (294)
2	150	205.7	162 (538)
3	150	137.3	145 (688)
4	150	120.8	144 (492)
5	100	96.6	198 (609)
6	100	66.95	184 (609)
7	100	78.7	166 (625)
8	100	104.75	185 (628)
9	100	55.9	125 (661)
10	100	90.9	160 (649)
11	100	62.4	134 (639)
12	60	45.5	113 (664)
13	60	23.66	79 (709)
14	60	20.35	65 (703)
15	30	12.3	36 (296)
16	60	26.9	87 (464)
17	60	19.15	66 (590)
18	60	24.7	83 (608)
通信	30	34.8	154 (300)
その他	-	20.975	80

募出額合計 14,044,350円  
募出者数 2,478人  
平均募出額(1人当り) 5,667.6円  
目標額に対する到達率 93.6%  
募出者率 23.0%

## 進路状況

五十二年三月八日、松江北高から四五三名の卒業生が巣立ちました。内四四九名が進学希望者、各大学への合格大学及び延数は以下の通りです。尚これには過年度卒業生の合格も入っています。又、短大、その他(他に二四名が進学しています)。

- (国立大学)
  - 北大(二) 帯広畜産大(一) 東北大(二)
  - 茨城大(一) 群馬大(一) 埼玉大(三)
  - 千葉大(二) お茶の水大(二) 東京大(五)
  - 筑波大(四) 一橋大(一) 横浜国大(二)
  - 信州大(三) 新潟大(一)
  - 金沢大(二) 富山医薬大(一) 名古屋大(二)
  - 静岡大(一) 岐阜大(一) 名古屋工大(四)
  - 京都大(五) 京都教育大(一)
  - 京大工機大(二) 大阪大(二)
  - 大阪教育大(一) 和歌山大(一) 神戸大(二)
  - 鳥取大(二) 島根大(五)
  - 島根医大(二) 岡山大(六) 広島大(二)
  - 山口大(一) 香川大(三) 徳島大(一)
  - 高知大(五) 愛媛大(二)
  - 九州大(四) 九州工大(一) 長崎大(一)
  - 熊本大(三) 宮崎大(一)
- (公立大学)
  - 高崎経済大(一) 都立大(二) 横浜市大(三)
  - 都留文大(一) 名古屋市大(一)
  - 大阪市大(三) 大阪府大(三)
  - 神戸商大(一) 広島女大(三) 下関市大(一)
  - 北九州大(四) 九州歯大(一)
- (私立大)
  - 酪農学園大(一) 文教大(一) 麗沢大(一)
  - 青山学院大(一) 大妻女大(一)
  - 学習院大(五) 北里大(一) 慶応義塾大(一)
  - 工学院大(一) 国学院大(四)
  - 国際基督教大(一) 駒沢大(二)
  - 実践女大(一) 芝浦工大(一)
  - 成蹊大(三) 聖心女大(一)
  - 上智大(六) 成蹊大(三) 聖心女大(一)
  - 専修大(六) 創価大(二) 大東文化大(一)
  - 玉川大(一) 中央大(六)
  - 津田塾大(五) 東海大(二) 東京経大(二)
  - 東京女大(三) 東京女子体大(一)
  - 東京電機大(一) 東京理大(四) 東邦大(一)
  - 東洋大(五) 日本大(三) 日本獣畜大(一)
  - 日本女大(三) 日本女子体大(一)
  - 法政大(七) 武蔵大(二)
  - 武蔵工大(一) 明治大(一)
  - 明治学

## 事務局便り

五十二年四月、校内幹事の異動がありましたのでお知らせします。  
(カッコ内は転出先)  
吉儀喜久教諭(江津高)六期卒  
今後のご活躍をお祈りします。  
○新校舎への移転は二月一日(第一)次として、第二三月一日(第二)次として、第三三月一日(第三)次として完了する予定です。三月二〇日以降は西川津校舎は閉鎖されます。  
○消えゆく西川津校舎を懐かしんで訪れる方々があります。最近では遠来の方々も、大阪より内藤美城男先生、広島より新宅覚先生が来校され、カメラに思いの校舎を収めておられました。  
○今春、卒業生に対する同窓会よりの記念品は例年の卒業証書入れのほかに校歌を飾った湯飲みと決定しました。西川津校舎最後の卒業生には思い深いものになることと思っております。同封しました葉書は、ご記入の上ご返送下さい。なお、振替用紙は発送の都合上、全員に同封しましたのでご諒承下さい。